



神社本庁 第三期

「過疎地域等神社活性化推進施策」指定神社

期間：令和六年七月一日～令和九年六月三十日



ともかき

第 32 号

発 行：妻垣神社社務所
宇佐市安心院町妻垣 203 番地
発行日：令和 7 年 12 月 23 日
電 話：0978-44-2519
<http://www.tumagakijinnjya.com>

本宮「足一騰宮」参道新設工事竣工登初式

去る十一月六日、

本宮「足一騰宮」参道新設工事竣工奉告祭が斎行されました。本事業は御社殿創建一千二百六十年の記念事業として実施したものです。

前号（三十一号）

でもご紹介しましたが、本宮は御神山である共鑰山の八号目に鎮座し、その道は傾斜三十度と少し険しく、尚且つ雨上がりには地面は滑りやすくなります。当社ではご参拝の皆様には清々しく、そして安全にご参拝いただくために、昨年より参道整備をしており、本年は拝殿跡地から本宮磐座までの間に、新たに緩やかな参道を造成する第二期工事を実施。この度新たな参道が完成し披露することとなりました。

当日は先ず本社にて竣工奉告祭を斎行。大分県神社庁神庁長を始め総代氏子崇敬者らが参列し、御神前に工事完成の旨をご報告申し上げました。また施工業者である（株）奥田組には暑い最中の工事にも関わらず、心配りのある施工への感謝を込め、神社より感謝状を贈呈しました。その後、全員で新たな参道入口に移動し、登初式をおこない、宮司を先頭に本宮へと参拝しました。

本事業には氏子内外より多くの奉賛金を頂戴しました。御奉賛賜かりました皆様には心より感謝申し上げます。



← 奥田守人会長へ感謝状の贈呈

新たな参道を大麻と切麻で祓い清める神職 →

参道入口の結界(しめ縄)を小刀で断つ宮司 ↓

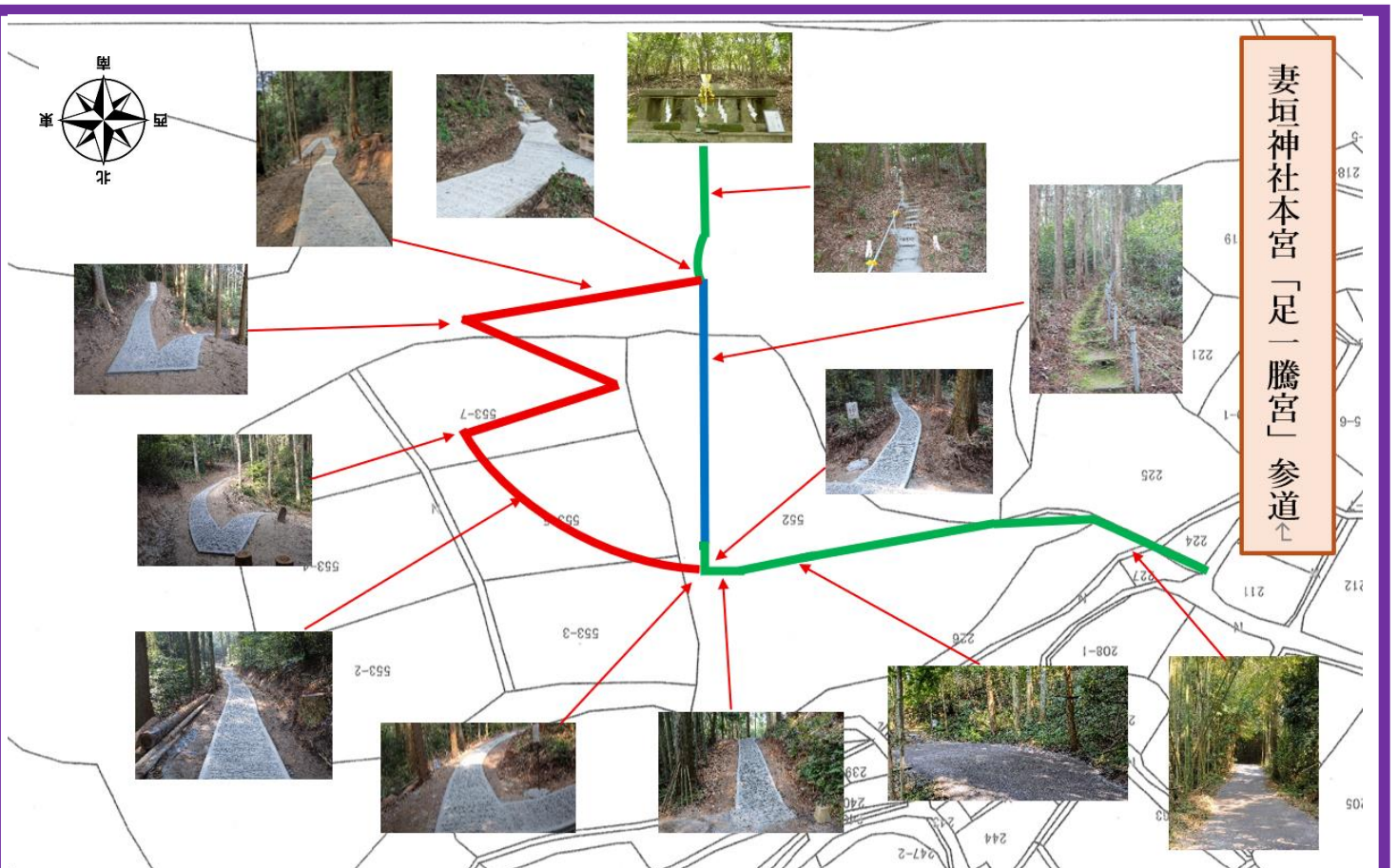


1260年記念事業 本宮参道新設工事概要



共鑰山の本宮へ詣でる参道は15年前に氏子である小野久夫氏が作った傾斜30度の階段があり、登るにはかなりの負担になっていました。今回新たに造成した参道はその道から横へと延ばし傾斜を緩やかにするために幾度かつづら折りにし、登りやすくしました。また下る際の転倒防止のため、道には滑り止めが施されており、本宮前の階段横には新たに手すりも設けられました。

これにより従来からの参道と新たな参道の二方向で本宮へ参拝することが可能となりました。ちなみに参道の愛称として、従来の道を男坂「久遠の道」、新たな道は女坂「守り人の道」と呼称しましたのでご報告致します。



奉祝 天平神護元年(765)御社殿創建

秋季大祭にあわせ 1260年祭を斎行



↑ 神饌を供え、一千二百六十年祭の祝詞を奏上する宮司



← 玉串拝礼



↑ 各地区を巡幸する神輿



↑ 神楽「大蛇退治」



↑ 6回にわけてまいたもちまき

本年、令和七年は奈良時代の天平神護元年(七六五)に宇佐宮の八幡大神が勅使石川朝臣豊成に対し、社殿創建の御神託を下してより、一二十年目を迎えました。当社では節目ごとに式年祭を斎行しており、今年の秋季大祭に併せ一千二百六十年祭を斎行しました。

午後からは引き続き神幸祭を執り行い、氏子地区へ三基の神輿が巡幸。各地区で祈願ともちまきがおこなわれました。

二日目には恒例のお神楽やもちまきがあり、好天にも恵まれ多くの方がお参りくださいました。

音響スピーカーの設置

特に今年は氏子外の小さなお子さん連れのご家族の姿が多く見受けられ、お祭りがにぎやかなものとなりました。

今回、一千二百六十年祭に併せて境内に音響設備を設置しました。当社の境内は大変広く、作業をする際などの連絡に苦慮してまいりました。今回の設置で参拝者への案内誘導や周辺地域にまで雅楽やおはやしなどを届けることができるようになりました。また災害時にも大いに役立つことが期待されます。

歴史ある妻垣神社を後世に

社殿修繕・環境整備活動への御奉賛について

《募金方法》 ※銀行振込もしくは現金書留でご納金願います。

◎銀行振込… ゆうちょ銀行

記号17250 番号12602981

口座名義 妻垣神社 (ツマガケジンジャ)

◎現金書留送付先… 下記の住所まで送付ください

〒872-0506 大分県宇佐市安心院町妻垣 330 番地の 1

妻垣神社社務所 (☎0978-44-2519)

当社ではご参拝の皆様にご清々しく、そして安全にご参拝いただくため、社殿の修繕や境内の環境整備活動を、総代氏子一丸となって懸命に努めております。

本活動に賛同いただき、ご奉賛を希望される方は左記の内容で受け付けております。詳しくは社務所までお問い合わせ下さい。

大東亜戦争終結80年 宇佐両院平和祈願祭

本年は先の大戦が終結してより八十年の節目となり、全国各地では平和の集い、慰霊祭などが執り行なわれています。

当社でも毎年八月末に境内忠魂碑にて平和祈願祭（慰霊祭）を斎行しており、去る八月二十五日、後藤竜也宇佐市長や安心院遺族会塚崎会長を始め総代氏子らが参列し、英霊の御霊の安らかならんこと、そして恒久平和を祈りました。

また九月末には安心院小学

校六年生が神社を訪れ、忠魂碑周辺を見学。併せて宮司より戦時中の安心院の子ども達の生活を中心とした戦争の話がありました。戦時中は食べるものも少なく、道端の草を摘んで飢えを凌いでいたことや、忠魂碑に祀られている戦没者の中には長崎の原爆で亡くなった人。戦争が終ってもソ連シベリアに抑留され亡くなった人など戦場以外



↑ 一基ずつコケを取り除いていく中学生

安心院小学校・中学校 次世代へ受け継ぐ平和学習を開催



↑ 宮司にあいさつする6年生。初めて神社に来た子も。

で亡くなられた人たちが安心院にいたことなど始めて聞く内容ばかりでした。
十月中旬には安心院中学校二年生が来社。恒例の忠魂碑周辺の安心院校区戦没者二二二柱の供養塔の清掃活動及び調査を実施しました。

今後子どもたちの学習場所として利用されることを期待しています。



← 神職による「みたまなごめの舞」男性が舞うのは珍しいとされる

大分県神社庁東国東支部・国東町神社総代会
国東町八坂社 敬神むつたま会

妻垣神社へ参拝研修

現在、当社は神社本庁過疎対策推進施策神社として活動を展開しており、去る十月二十六日と十一月六日の二度にわたって国東地域の神社関係者が来社し、遺族会館にて研修会を開催しました。

研修では神社の運営状況や活動などについて宮司より説明。参加者からは活発な質問や意見が飛び交いました。「今までで一番良い研修だった」「過疎が進む氏子の少ない神社であれだけのことをしている。参考になった」「宮司のユーモラスな話に感銘を受け、元気を頂いた」「過疎の中でも神事など手を抜かないことに驚かされた」「今日の話を地域の氏子にも聞かせたい」「自分の地域での取り組みの参考にしたい」との感想が寄せられました。

